

(6) 見守り困難な点

見守り困難な点について、泉南市は対象者の家に入り込むことや見守り対象者がわからないことを困難と感じていたが、羽曳野市は他機関から情報が得られないことを困難に感じていた。このことから、羽曳野市は見守り対象者を把握しており、情報の共有が次の課題となっていると考えられた。次の担い手を育てることを困難と感じている点は、二市に共通して見られた。

2) 見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューの質的分析結果

泉南市と羽曳野市における見守り組織を支援してきた地域包括支援センターや在宅介護支援センター職員へのインタビューの質的分析の結果より下記のことが示された。

(1) 見守りメンバーのバックグラウンド

見守りメンバーのバックグラウンドでは、羽曳野市では既に民生委員には見守りのノウハウがあり、民生委員同士での協力体制が取れていた。一方泉南市では住民の声が上がって見守りネットワークができたところであり、民生委員は包括職員にはわからない雰囲気をつかむといった活動にとどまっていた。

(2) 見守り対象となる高齢者

見守り対象となる高齢者については、両地域とも家族や近所とつながりがない、介入を拒否する、ごみ屋敷に住むなど、交流が少なくセルフネグレクト状態にある高齢者を見守り対象としていた。また、羽曳野市では精神障害や認知症など何らかの問題が顕在している高齢者を対象としており、泉南市は低所得者や介護者が息子や働いていない子どもである高齢者など、潜在する問題が考えられる高齢者を対象としていた。

(3) 高齢者への支援

高齢者への支援では、両地域とも住民や見守りメンバーから情報を得て、本人を受けとめながら支援を行っていた。羽曳野市では、すでに見守りネットワークが組織されて活動していることから、信頼関係を構築するため専門職から高齢者への頻回な訪問などが実施され、多くの職種が関わって支援を行っていた。一方泉南市では見守りネットワークを高齢者に知ってもらい取り組みや、見守りのサインとして高齢者の生活ぶりを把握することを行っていた。

(4) 組織・地域への支援

組織・地域への支援では、両地域ともメンバーと顔をつないで情報提供されやすい関係を作ることを行っており、組織化や社会資源の開発が重要であることを感じていた。羽曳野市では、すでに見守り組織が出来上がって連携が取れる状態であり、高齢者への個別対応に民生委員の訪問を依頼するなど見守りメンバーに動いてもらうような関わりを行っていた。一方、泉南市では見守り組織を立ち上げてまだ間もないため、高齢者への個別対応には情報を得て民生委員と共に訪問するなどメンバーと一緒に動く活動を行っていた。

(5) 支援の困難な点

支援の困難な点では両地域とも高齢者自身が支援を受ける必要性を感じず介入を拒否されるときに困難さを感じていた。また、独居である限り孤立死を必ず予防できるとは限らないといった見守り活動の限界についても感じていた。羽曳野市では情報を把握した後の動きについての困難さを感じており、一方、泉南市では情報を把握する困難さや情報を共有する困難さを感じていた。

3) 総括

以上より、羽曳野市と泉南市では、見守り組織の活動段階や既存のネットワーク組織体制が異なるため、見守りを行っている地域住民における孤立死発見のプロセスや見守りの方法や他機関との連携の認識が異なることが示された。また、見守り組織づくりを支援してきた専門職の高齢者への支援方法や組織づくりの具体的な内容も両市で異なることが明らかになった。

しかし、地域住民や専門職がとらえている見守り対象となる高齢者像については、家族や近隣の人々との関係性に問題がある高齢者、認知機能や精神症状がある高齢者が共通してとりあげられていた。また、両地域でこれらの見守り対象となる高齢者像に明らかな違いはみられず、他の地域のデータを追加しながら、見守り対象となる高齢者の状況を一般化することが今後の課題である。

4章 まとめ・提言

本年度のアンケート調査結果およびインタビュー面接調査結果の分析により、明らかになったことおよび、提言を箇条書きにする。

○地域特性

- ・ 限界地域集落の日々の日常的な係わり通して培われた信頼関係と住民間の相互依存はハイリスク単身高齢者世帯などの早期発見、見守りに役立っており、住民主体の見守り組織を特に必要としてない。
- ・ 住民の流出が多かったり、昼夜のない多忙な稼働が求められる限界地域集落では、自身の生活時間を使っての見守りに負担を感じており、信頼と相互依存に基づき暗黙の了解で近隣間で引き継がれてきた見守り組織にひびが入り壊れつつある。これの補完・再構築には、災害時に備えた相互救出のマップづくり作業などで近隣地域内のより強固な災害緊急危機時のための相互支援システム構築への啓発教育を行い、見守り組織再構築に繋げる。
- ・ 大都市及び近郊都市で見守り組織が根付いている地区の見守り組織メンバー達は不安と責任の重さを恒常的に感じているが、一方、住民主体による見守り組織の有効性を理解して活動に参加している。これら見守り組織参加メンバーを見守り活動から脱落させないで維持し続けるには、関係専門職による具体的・継続的な後方支援が求められる。

○見守り専従者の配置

- ・ 疾病や健康が不安定で住民相互の見守り組織に頼りきれないハイリスク単身高齢者世帯の安全・安心確保のために、限界地域集落では行政責任で定期および、随時の継続訪問システムを構築している。

- ・ 見守り組織メンバー達の不安と責任の重さの解消には、行政支援による見守り訪問専従者の確保が必要。住民の見守りレベルを越えた対象には専従者や専門職の容易で即応な介入システムを構築する必要がある。
- ・ 見守り専従者としては、ハイリスク訪問対象高齢者が抱える問題の把握や解決に適した職種を選択して配置する。疾病・健康問題、要医療処置高齢者等には保健師または訪問看護師、生活問題全般については介護・福祉職が望ましい。

○見守り必要者の早期把握とセルフ・ネグレクト防止

- ・ 住民の人口規模の大小にかかわらず、早期に地域内の全高齢者を漏れなく訪問実態調査し、訪問拒否世帯は専門職が調査して正確な対象把握を行う。全高齢者実態調査は小規模人口地域ほど調査間隔をあけて(3～5年以上)よい。要見守り高齢者への働きかけは住民主体の見守り組織を育成しつつ、住民が可能な近隣範囲で選択する。訪問だけでなく電話や灯り、ゴミだしの状況など様々な間接的な方法も用いて継続した見守りの実践活動とする。
- ・ 住民の見守りレベルを越えた対象には、行政支援による見守り訪問専従者を確保が必要。専従者や専門職の容易で即応な介入システムを構築する必要がある。
- ・ 見守り組織の構築が難しい地域では、災害時に備えた相互救出のマップづくり作業などを通して近隣地域内のより強固な災害緊急危機時のための相互支援システム構築をし、このシステムを日常の見守りシステムとして活用している地域もある。
- ・ 地域特性、人口規模の大小を問わず、行政と見守り組織参加住民だけの見守りシステムに止めることなく、高齢者の生活圏域内でもかかわる商店街やコンビニストア、スーパー、銀行、郵便局、JA、警察、医療機関などを含む周辺見守り環境組織を育成し、わがまち全体で単身高齢者等ハイリスク世帯の早期発見・見守り組織を育成中の地域は多い。
- ・ 様々な見守りチームが重複して構築・活動することで、セルフ・ネグレクト高齢者の早期発見、潜在化防止になっている。

○見守り基準づくり

- ・ 維持継続可能な見守りネットワークシステム構築後に用いる見守り基準は、専門職用のみ、住民ボランティア用と様々な基準が作られている。見守り対象のレベルは多様である。これを整理して、専門職の見守り基準と住民ボランティアの見守り範囲の基準までを連動させ、組織別、地域特性別(限界地域集落用と都市用)視点を加え早急に作成する必要がある。
- ・ 平成21年度早々に本調査対象である10市区町村の34地区の見守り組織のうち、5地区の見守り基準表と文献をもとに組織別、地域特性別見守り基準案を作成して34地区の見守り組織で試行を重ね実用化を考えている。

<文 献>

- ・ Ayumi Kono, Chieko Tsumura(他4名): Cognitive response changes during adult day nursing care service for server disabled elder with skilled nursing care needs. 国際老年精神医学会、(2007)10/14
- ・ Maria P.Pavlou, Mark S. Lachs. Could self-neglect in older adults be a geriatric syndrome? JAGS.54:831-842, 2006.
- ・ 木脇奈智子, 棚山研, 新井康友: 泉北ニュータウンの現状と居住・福祉, 羽衣国際人間生活部研究紀要, Vol.4, p1-14, 2009.

資

料

- 資料1 アンケート調査票
- 資料2 高齢者の孤立死防止見守り組織に関する研究協力について(依頼)
- 資料3 アンケート調査協力へのお願い
- 資料4 グループインタビュー協力へのお願い
- 資料5 研究協力承諾書
- 資料6 インタビューガイド

アンケート用紙

同封の返信用封筒により

平成20年9月30日（火）までに返送をお願いいたします。

平成20年9月

甲南女子大学

看護リハビリテーション学部

*** 回答のしかた**

- ・ 質問項目では、原則として答えの中であなたのお考えに一番近いもの1つ選んで番号に○をつけてください。
- ・ 《あてはまるものすべてに○》 となっている項目では、あてはまるものすべてに○をつけてください。
- ・ ()内には数値又は、適当な語句を記載ください。

A あなたご自身についておうかがいします

1. 性別、年齢

1 : 男性 年齢 (歳) 2 : 女性 年齢 (歳)

2. 地域での主な役職についてあてはまるものに1つ○をつけてください

1 : 民生委員児童委員 2 : 友愛訪問ボランティア 3 : 自治会長
4 : 老人会・老人クラブ 5 : 婦人会
6 : その他 ()

3. 所属している「見守り連絡会」の地区名に○をつけてください

1 : ○○○地区 2 : ○○○地区
3 : その他 (地区)

B あなたの地区の住民に、あなたが感じていることをおたずねします

1. あなたの地区の方々は、例えば近隣の方々と信頼感は築きやすいですか

1 : 築きやすい 2 : まあ築きやすい 3 : どちらともいえない
4 : 築きにくい

2. あなたの地区の方は、例えば近隣の方の役に立ちたいと思っていますか

1 : とてもそう思う 2 : まあそう思う 3 : どちらともいえない
4 : そう思わない

2. あなたが「行っている見守り活動として実施した方が良いと思われる活動に○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

- 1 : 見守り活動 2 : 相談活動 3 : 保健・医療・福祉の情報提供
4 : 地域の連携・協力体制づくり 5 : 交流の場の開催 6 : 勉強会開催
7 : あんしんすこやかセンターや行政等の関係機関との連携
8 : 災害時の対応 9 : 地域の高齢者の実態把握 10 : その他
()

3. あなたが実際に行っている活動について○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

- 1 : 見守り活動 2 : 相談活動 3 : 保健・医療・福祉の情報提供
4 : 地域の連携・協力体制づくり 5 : 交流の場の開催 6 : 勉強会開催
7 : あんしんすこやかセンターや行政等の関係機関との連携
8 : 災害時の対応 9 : 地域の高齢者の実態把握 10 : その他
()

4. 「見守り連絡会」の活動についてのご意見をご自由にお書きください

[]

D 見守り活動についておうかがいします(個人的に普段から気をつけている人も含む)

1. あなたが過去3か月から現在までの期間で見守り活動をしている対象者はおられますか

- 1 : いる 2 : いない → 6-1 (4 ページ)へお進みください ↓

2. 見守りをしている対象者についてあてはまるものに○をつけてください

<世帯について> 《あてはまるものすべてに○》

- 1 : 一人暮らし 2 : 高齢者のみの世帯
3 : 同居家族はいるが昼間一人 4 : 同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯
5 : 心身状態が良好でない同居家族のいる世帯
6 : その他 ()

6-2. 見守りの基準により早期に対応ができた事例がありますか

- 1: ある 2: ない

↓ 差しさわりがなければおおよその様子をお書きください

[]

7. 見守りの効果についてあてはまるものに○をつけてください

《あてはまるものすべてに○》

- 1: 困っている方を早期に把握できた 2: 困っている方の援助につながった
3: 孤立している方を早期に把握ができた 4: 孤立している方の援助につながった
5: 困ったことがあれば、相談をしてくれるようになった 6: 地域の方々の結びつきが強くなった
7: 地域での多職種間の連携がよくなった 8: その他()

8-1. 見守りをする上であなたが困難に思っている点についてあてはまるものに○をつけてください 《あてはまるものすべてに○》

- 1: 本人から見守りを拒否される 2: 家族から見守りを拒否される
3: 不在など本人の動向がつかめない 4: 情報が得られにくい
5: 自身が忙しくて見守りができない 6: 自分ひとりでの見守りは荷が重い
7: その他()

8-2. あなたの抱える困難の解決には、どのようなことをする必要がありますか

[]

9. あなたの担当地域にお住まいの高齢者の人数がわかりますか

- 1: わかる 2: ほぼわかる 3: 少ししかわからない 4: わからない

10. 担当地域の高齢者の中で、情報が得られない（得にくい）方はおられますか

- 1: いる 2: いない

11. ふれあいのまちづくり協議会で実施されている、高齢者のふれあい（給食、喫茶など）・世代間交流・子育てサツ・地域のイベントなどをご存知ですか

- 1: 知っている 2: 知らない

12. ふれあいのまちづくり協議会で実施されている活動に参加、協力されていますか

1 : 参加している

2 : 参加していない

13. 見守り活動についてのご意見をご自由にお書きください

E 孤独死（孤立死）についておうかがいします

本調査での孤独死（孤立死）とは、単身高齢者や高齢者のみの世帯の高齢者が、地域の人たちや、行政・民間のサービス機関等に気づかれずに死亡されるような事例（死後の発見時期、たとえば3日、1週間、2週間後などの期間は問わない）とします。本人がサービス等を拒否した場合も含まれます。

1. 孤独死（孤立死）という言葉聞いたことがありますか

1 : ある

2 : ない

2-1. あなたの担当地域の中に孤立死する危険性が高いと考えられる方はおられますか

1 : いる

2 : いない → 3 (6 ページ)へお進みください

↓

2-2. どのような理由で思われましたか

1 : 見守りや援助を拒否する
2 : 外出しない
3 : 近所づきあいがない
4 : 意欲や気力がない
5 : 人の出入りがない
6 : 健康状態がよくない
7 : 医療拒否
8 : その他
()

3. 過去にあなたの担当地域で孤独死（孤立死）がありましたか

1 : あった ↓

2 : ない

↓ 差しさわりがなければおおよその様子をお書きください

4. 孤独死（孤立死）は「見守り連絡会」の活動で防ぐことができますか

- 1：まったくそう思う 2：そう思う
3：あまりそう思わない 4：まったくそう思わない

5. 孤独死（孤立死）を防ぐための方法の提案やご意見をご自由にお書きください

①家族や本人ができること ②地域でできること ③行政および専門機関に求める役割など

F あんしんすこやかセンターについておうかがいいたします

1 - 1. あなたはあんしんすこやかセンターをご存知ですか

1. 知っている 2. 知らない

↓

1 - 2. あんしんすこやかセンターに相談されたことはありますか

1. はい 2. いいえ

2. 見守りで困った時はどこに相談していますか

具体的にお書き下さい。

～最後までご回答いただきありがとうございます～

- * 本調査について、さらにおたずねしたいことや記載漏れなどが生じましたら電話等で問い合わせさせていただき所存です。ご了解いただける方は枠内にお名前、電話番号を記載ください。（本調査以外でお名前や電話番号を漏らしたり、使用することはありません。分析終了後、本調査用紙は裁断機にて、破棄することを約束いたします。）

お名前	
電話番号	

平成 20 年 月 日

〇〇あんしんすこやかセンター

〇 〇 〇 〇

様

研究代表者：〇〇 〇〇〇

甲南女子大学看護リハビリテーション学部長

高齢者の孤立死防止見守り組織に関する研究協力について(依頼)

盛夏の候 貴職におかれましてはご清祥のことと存じます。

さて、このたび私ども在宅高齢者の保健福祉問題に関する研究に取り組む3大学の地域・在宅・老年看護領域の研究者は厚生労働科学研究費補助金交付を受け、「高齢者の孤立死防止見守り組織研究」に取り組むことになりました。その背景には近年、わが国の都市部および限界集落地域において、地域から孤立した高齢者や単身高齢者の死亡が増加傾向を示していることにあります。地域における高齢者世帯や独居世帯の見守りが重要性を増してきています。

そこで、高齢者の孤立死を防止調査研究として見守り組織のあり方および、これら組織による見守り基準について貴あんしんすこやかセンターのご協力により、民生委員及び友愛訪問グループ等の見守り支援者の皆様からご意見をお聞かせいただきたく、本研究への協力をお願いする次第です。

つきましては、ご多忙中のところお手数ではございますが、以下に示します研究の概要をご理解いただき、アンケート調査および面接調査にご協力方お願い申し上げます。

なお、本調査研究は神戸市に協力をいただき、甲南女子大学が主体となり、大阪市立大学、大阪府立大学の看護領域研究者と共同して実施いたします。

記

研究課題

高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究

研究目的

地域で生活するセルフ・ネグレクト状態の中・高齢者等の早期発見を可能にする地域特性を踏まえた地域見守り組織を市町村行政へ提言する。あわせて見守りの別判断基準を作成、これにより地域内の孤立死防止を図ることを目的とする。

研究方法

1. アンケート調査を見守り支援者(民生委員及び友愛訪問グループなど)に実施
別添資料1：所要時間約25分程度。調査内容は、地域内の見守り組織の活動内容、見守り内容、孤立死防止に関する項目など。
2. 見守り支援者のうち、代表者等への半構成グループインタビューの実施
別添資料2：所要時間約1時間程度。調査内容は、地域内の困難事例への見守り組織活動の実際、見守り内容、孤立死防止活動への今後の課題など。
3. 見守り組織関係専門職及びケア会議参加代表者への個別半構成面接の実施
別添資料2：所要時間約1時間程度。調査内容は、見守り困難事例及び見守り組織への専門職のかかわりの実際、見守り関係職種間の連携と活動内容、孤立死防止活動への今後の課題など。

平成 20 年 9 月 2 日

〇〇地区地域見守り連絡会
地域見守り支援者関係各位

アンケート調査協力へのお願い

盛夏の候 皆様におかれましてはますますご清祥のことと存じます。

平素は、皆様方が地域見守り活動にご尽力されていることに敬意を表します。

このたび、甲南女子大学では、高齢者の方が住みなれた地域で安心して生活が続けられようとするため、地域における見守り組織が重要と考えています。そこで、この度「高齢者等の孤立化、孤立死防止」研究を行うため、神戸市及び、〇〇あんしんすこやかセンターの協力をいただき、見守り支援者を行っておられる皆様方に、アンケート調査をさせていただき、ご意見等をお同することとしました。

つきましては、ご多忙中のところお手数ではございますが、本アンケート調査にご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査研究事業は、神戸市に協力いただき、私ども甲南女子大学と、大阪市立大学、大阪府立大学が共同して実施いたします。

アンケートの目的

高齢者等の孤立化や孤立死を防ぎ、高齢者が安心して暮らせる地域見守りの仕組みづくりと、見守り基準づくりの検討をするための資料にする。

アンケートの扱いについて

- 記入内容は目的以外に使用しません。
- アンケートの集計、分析は、統計分析ですので、個人の名前が公表されることは一切ありません。また、プライバシーの保護を最優先にし、個人情報が増えることはありません。
- 回収したアンケート用紙は厳重に保管し、集計終了後は確実に廃棄します。
- アンケートに協力いただかなくてもあなた様が不利益を被ることはありません。

お願い

- アンケートは平成 20 年 9 月 30 日（火曜日）迄に同封の封書で、〇〇あんしんすこやかセンターまで返送下さいますようお願いいたします。
- アンケートにお答えいただいた後、ご協力をお願いするグループの代表の方に、個人面接調査も合わせて行わせていただく予定です。面接時間は各々 60 分程度で面接日時はグループの代表の方と相談の上、ご都合に合わせて設定させていただきます。

<お問い合わせ先>

甲南女子大学看護リハビリテーション学部代表者：〇〇〇〇〇

責任者：〇〇 〇〇

〒〇〇〇-〇〇〇〇 神戸市〇〇区〇〇町〇-〇-〇

電話 ×××-×××-××××

〇〇〇〇あんしんすこやかセンター

担当：〇〇 〇〇

電話：×××-×××-××××

平成 20 年 12 月 3 日

〇〇地区地域見守り連絡会
地域見守り支援者関係各位

グループインタビュー協力へのお願い

初冬の候 平素は、地域見守り活動に尽力され、敬意を表します。

さて、このたび甲南女子大学では、高齢者の皆様が笑顔で安心して生活できる地域とするため「高齢者等の孤立化・孤立死防止」に向け、地域内の見守り組織のあり方や地域高齢者見守り基準を作成することを目的に、皆様方、地域見守り支援者の方々にご協力をお願いすることになりました。

つきましては、ご多忙中のところお手数ではございますが、見守り組織で活動されている皆様にグループ及び個人面接でご意見をいただけますよう、ご協力方お願い申し上げます。

なお、本調査研究は、神戸市及び〇〇あんしんすこやかセンターの協力のもと、甲南女子大学が主体となり、大阪市立大学、大阪府立大学の看護領域研究者と共同して実施いたします。

記

研究課題

高齢者等の孤立化や孤立死を防ぎ、高齢者が安心して暮らせる地域見守りの仕組みづくりと見守り基準づくり

研究目的

地域で生活する孤立状態の中・高齢者等の早期発見を可能にする地域特性的見守り組織を明らかにする。
あわせて見守り別判断基準を作成し、地域内の孤立死防止を図ること。

研究方法

質問紙によるグループ面接調査を行わせていただきます。面接時間は各々60分程度です。面接日時は皆様方と相談の上、ご都合に合わせて設定させていただきます。

質問内容は、見守りが難しい事例、見守りの必要性の有無を把握できない事例、孤立の住民をうまく援助できなかった事例、うまく援助できなかった事例、孤立死防止に向けて行っている活動、孤立死防止に向け果たすことができる役割、孤立死防止に行政および専門職に求める役割、行政および専門職の連携と課題などです。

グループ面接調査データの扱いについて

〇お話を正確に把握するため、録音をさせていただきたいと思いますが、支障がある場合は遠慮なくお申し出ください。その場合、聞き取りながらメモをさせていただきたいと思います。

〇録音をしたデータは目的以外に使用しません。プライバシーの保護を最優先にし、個人情報が増えることはありません。また、データは厳重に保管し研究が終了次第速やかに処分いたします。

〇研究への参加協力は自由意志であり、ご承諾いただけない場合に不利益を被ることはありません。また、途中でいつでも協力を取りやめることも可能です。

〇ご希望がありましたら研究データおよび研究結果を確認することができます。また、研究成果は皆様が住む市町村及び厚生労働省に報告し、国の高齢者施策の基礎資料としても活用されます。

以上の趣旨をご理解頂き、研究にご協力くださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。なお、ご不明な点やご意見等がありましたら、次のところへご連絡ください。

<お問い合わせ先> 甲南女子大学看護リハビリテーション学部代表者：〇〇〇〇〇

責任者：〇〇 〇〇

〇〇あんしんすこやかセンター 担当：〇〇 〇〇

平成 20 年 月 日

研究協力承諾書

私は、研究課題「高齢者等の孤立化、孤立死防止」について、研究目的、研究方法、倫理的な配慮について、別紙文書および口頭での説明を受け、その内容を理解しましたので、研究への協力を承諾いたします。

平成 20 年 月 日

研究協力者署名 _____

説明者署名 _____

<お問い合わせ先>

甲南女子大学看護学部 生活学部代表者：〇〇 〇〇〇

責任者：〇〇 〇〇

〒〇〇〇-〇〇〇〇 神戸市〇〇区〇〇町〇-〇-〇〇

電話：×××-×××-××××

〇〇あんしんすこやかセンター

担当：〇〇 〇〇

電話：×××-×××-××××

インタビューガイド

研究課題

高齢者等の孤立化・孤立死防止の見守り組織及び見守り基準作成

研究目的

神戸市及び〇〇あんしんすこやかセンターの協力のもと、〇〇地区地域見守り連絡会の取り組み状況を伺い、高齢者等の孤立化・孤立死防止につながる見守りネットワークのあり方を検討することにより、高齢者の孤立死防止を図る方策を検討することです。

調査内容

1. 見守りが難しい事例、見守りの必要性の有無を把握できない事例
2. 孤立の住民をうまく援助できた事例、うまく援助できなかった事例
3. 孤立死防止に向けて〇〇地区地域見守り連絡会が行っている活動
4. 孤立死防止に〇〇地区地域見守り連絡会が果たすことができる役割
5. 孤立死防止に行政および専門職に求める役割
6. 〇〇地区地域見守り連絡会と行政および専門職の連携
7. 孤立化・孤立死防止に向け〇〇地区地域見守り連絡会が取り組むにあたっての課題
8. その他

インタビュー調査担当者：氏名 _____

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織の
あり方と見守り基準に関する研究
〈大阪府泉南市六尾の郷地域包括支援センター地区〉

—平成20年度初回調査の概要—

平成20年度 分担研究報告書《NO 1》

分担研究者 河野あゆみ

平成21(2009)年3月

目 次

はしがき	1
研究組織	2
第1章 調査地区の概要	3
第2章 地域見守り組織作り推進への取り組み	7
第3章 調査結果		
1. アンケート調査		
1) 研究目的・方法	14
2) 結果	14
2. インタビュー調査		
1) 研究目的・方法	38
2) 結果	40
第4章 まとめ	59
(資料)	63
調査表等を入れる		

はしがき

人口構造および世帯構成の将来推計より、わが国の超高齢化は一層進み、近隣間での人々のつながりが希薄になり、お互いの生活に無関心な生活スタイルが定着しつつある。特に、経済基盤が脆弱な家族や、一人暮らし高齢者、高齢夫婦のみ世帯の高齢者が病気や怪我、災害などの危機的状態に陥ったときに誰にも助けを求めることができず心中・介護殺人など、悲惨な状況で孤独な死を迎えていることが、新聞テレビで報道され社会問題化している。このような孤独死の背景には、高齢者のセルフ・ネグレクト(自己放任、以降省略)の可能性が高く、セルフ・ネグレクト状態の中・高齢者等の孤独死は、今後増え続けることが予測される。

高齢者のセルフ・ネグレクトの問題については、正常な判断能力を持つ者の自由意志に基づく行為の結果は、個人の選択の問題であり、法的介入や医療保健福祉の専門家の介入対象にならないという考え方がある。その一方で、セルフ・ネグレクトは個人がコントロールできず、周囲の状況によって起こる結果であり、安全や健康を脅かしている場合、専門家が介入を行うべき問題であるという考え方もある。人権意識の低いわが国の状況をふまえると、人権を守る観点からもセルフ・ネグレクトは見逃すことができない問題である。また、セルフ・ネグレクトに関する最新の文献レビューでは、高齢者の認知機能障害と抑うつがセルフ・ネグレクトの二大要因であり、高齢者のセルフ・ネグレクト状態は死亡の危険性が著しく高いことを示唆し、セルフ・ネグレクトの見守りによる早期発見・早期介入支援が必要な状態であることを明確に指摘している。しかし、セルフ・ネグレクトはわが国の虐待防止法では未だ定義されていない。

平成18年「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」施行後、厚生労働省は全国市町村に地域見守り組織構築の重要性を指摘したが、平成19年3月全国市町村調査では民生委員・住民等からなる早期発見・見守り組織構築への取り組みは16.8%しかない。孤独死の主原因となるセルフ・ネグレクト状態の中・高齢者の早期発見、見守り組織に関する実証研究は、国内及び海外の文献資料などでも希少な取り組みである。

本研究の目的は、セルフ・ネグレクト状態等の高齢者の早期把握のため求められている都市や僻地の地域見守り組織について、見守り専任職員の雇用の有無による活動の違いと課題を明らかにし、それぞれの地域に適したセルフ・ネグレクトの早期発見・見守り組織や地域包括支援センター等との連携のあり方を考えることにある。

初年の平成20年度は、セルフ・ネグレクト状態など支援困難な中・高齢者等の早期発見・対処に目を向け、都市部や僻地における地域見守り組織への実態把握及び関係者への面接を通して地域特性の有無を検証。併せて見守り専門職の配置の有無による見守り方の違い等を分析している。

本報告書は、市町村および地域包括支援センターが担うセルフ・ネグレクト状態等の高齢者の早期発見・早期把握のための基礎資料として役立つものとする。

平成 21年 3月 吉日

主担研究者・分担研究者